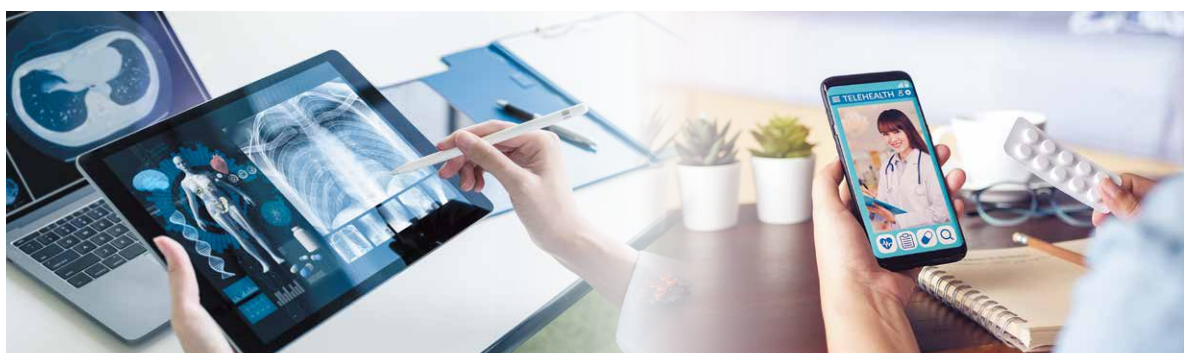


DNP Report Vol.109

株主通信 (証券コード:7912)

[特集]

DNPのメディカルヘルスケアの取り組み



DNP

未来のあたりまえをつくる。

**DNP独自の強みを掛け合わせ、
医療に貢献し、生涯にわたって
健康維持をサポートする新しい
価値を提供していきます。**

代表取締役社長 北島 よしなり 義斉



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

コロナ禍の影響によって国内外でさまざまな制約が続くなか、私たちの働き方や生活様式の変化も加速しています。国内ではネットワークを活用した遠隔教育やオンライン診療が広がったほか、第5世代移动通信システム(5G)や高性能なデジタル機器の需要が拡大しています。また、地球温暖化防止や環境負荷低減に対する世界の人々の意識が高まり、環境に配慮した製品・サービスの開発や次世代モビリティ社会の実現に向けた動きも活発化するなど、DNPグループの事業拡大のチャンスが広がっています。

そうした事業環境のなか、私たちは今、持続可能なより良い社会、より快適な暮らしの実現に向けて、社会の課題を解決するとともに、人々の期待に応える新しい価値の創出に努めています。DNPは常に、社会に貢献していくこと、人々の暮らしを豊かにしていくことを「志」として持ち続け、現在は「未来のあたりまえをつくる。」というブランドステートメントにその思いを込めています。事業ビジョンとして、「P&Iイノベーションにより、4つの

成長領域を軸に事業を上げていく」ことを掲げ、独自に進化させてきた「P&I」(印刷と情報:Printing and Information)の強みを掛け合わせ、多くのパートナーとの連携も深めて、社会や人々に欠かせない価値を提供していきます。

2022年3月期も引き続き、オンライン診療を支えるカラーマネジメント、個々の児童・生徒に最適な教材を提供する教育ICT事業、VR(仮想現実)・AR(拡張現実)を活かしたバーチャルショールームなどの事業に注力しています。また、感染リスクの低減につながる抗菌・抗ウイルス製品のほか、テレワークや巣ごもり需要の拡大で好調が続いている各種情報端末・電子機器用部材の製品開発も進めています。環境関連の事業では、世界トップシェアを獲得しているリチウムイオン電池用のバッテリーパウチが、電気自動車用で大きく売上を伸ばしています。また「DNP環境配慮パッケージング GREEN PACKAGING」を展開しているほか、半導体用のナノインプリント技術も、製造時の消費電力を削減する仕組みとして注目されています。こうした取り組みによって、温室効果ガス排出量の削減やエネルギー効率の向上を実現していきます。

今回の「DNP Report」では、注力事業(下の図参照)のなかから、メディカルヘルスケアの取り組みをご紹介します。医療や健康維持に対する意識やニーズが高まるなか、DNP独自の「P&I」の強みとパートナーとのつながりを活かして、「製薬サポート事業」と「スマートヘルスケア事業」の2つの軸で新たな事業領域を開拓していきます。

製薬サポート事業では、細胞培養基材などを活用した創薬支援や、原薬製造事業、医薬品パッケージ事業などを進め、製薬関連の企業や医療関係者、一人ひとりの患者を支援します。スマートヘルスケア事業では、DNPの情報セキュリティ基盤を活かして、健康経営をめざす自治体や健診事業者のデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進します。

(4-5ページで主な取り組みをご紹介します。)

2022年3月期の第3四半期(2021年4-12月)においても、引き続き、高い市場成長性と収益性を見込む「注

力事業」として、「IoT・次世代通信」「データ流通」「モビリティ」「環境」関連のビジネスを設定し、経営資源を重点的かつ最適に配分して事業の拡大に取り組みました。また、競争力強化のための構造改革にも取り組み、強い事業ポートフォリオの構築を推進しています。

当期間の連結業績は、売上高が前年同期比1.4%増の1兆16億円、営業利益が54.1%増の492億円、経常利益が48.9%増の589億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、退職給付制度の改定及び投資有価証券の売却に伴う特別利益の計上もあり、188.5%増の695億円となりました。

私たちDNPは、これからもより長期を見据え、持続可能な社会のなかで人々の健やかな暮らしが輝き続けていくように、新しい価値を創出し続けていきます。

今後とも一層のご指導とお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

「4つの成長領域」における注力事業

情報コミュニケーション部門

生活・産業部門

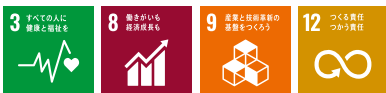
エレクトロニクス部門



【特集】

DNPのメディカルヘルスケアの取り組み

P&I(印刷と情報)の独自の強みと、パートナーの強みを掛け合わせて、医療の進展や生涯にわたる健康維持をサポートする製品・サービスを開発・提供します。SDGsの達成にもつながる新しい価値の創出に取り組んでいます。



DNPの事業化テーマとターゲット市場

<h1>33</h1> 兆円	▶ メディカル・ヘルスケア関連事業 健康寿命の延伸とQuality of Lifeの向上 * 2025年公的保険を支える公的保険外サービスの産業群 (経済産業省委託事業)	<h1>5.2</h1> 兆円	▶ ライフサイエンス関連事業 再生医療 / 遠隔医療等の進展 * 2030年の国内外の再生医療周辺産業の市場 (経済産業省)
----------------	--	-----------------	---

DNPの製薬サポート事業 技術の応用・発展による 事業展開で新しい価値を創出



DNPは印刷技術や情報技術等の強みを活かして、原薬製造事業や医薬品パッケージ事業、創薬支援などの新規事業開発に注力しています。

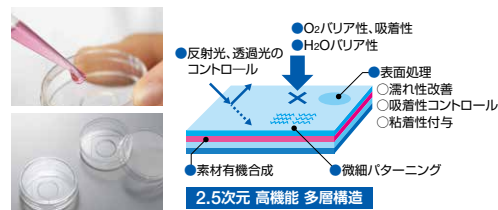
2004年、東京医科歯科大学との共同研究で、基材上にパターン培養した細胞を転写して直径約10 μ mの毛細血管をパターン化する技術を確認しました。これにはDNPのフォトマスク(半導体製品の製造用原版)関連の写真製版技術と転写技術を活用しています。この細胞パターン化技術を発展させ、2008年には国内初の細胞パターン培養基板「CytoGraph®(サイトグラフ)」を製品化しました。この時の技術は、生体の腸に近い特性を示す立体臓器「ミニ腸」の作製用基材の基礎にもなっています。また、温度を下げることで、培養した細胞をシート状できれいに剥がせる温度応答性培養器材などを製造しています。

今後も、特殊な細胞培養容器の品質・性能の向上と、細胞画像解析技術を活かした非破壊での細胞品質管理技術の開発などを進めていきます。

薄膜多層構造化を核とした技術展開

● **微細加工技術の再生医療への応用**
 薄膜多層パターンニング技術で、表面に微細加工を施した特殊な容器をつくることで、細胞レベルでの各種細胞シートを生み出すことができます。

● **高機能部材による医薬品の劣化防止**
 医療の現場で用いる医薬品・医療機器の包材は、高い機能性と品質管理が要求されます。DNPは、蒸着技術を活用したバリアフィルムによる安全で衛生的な高機能容器やパッケージを開発・提供しています。



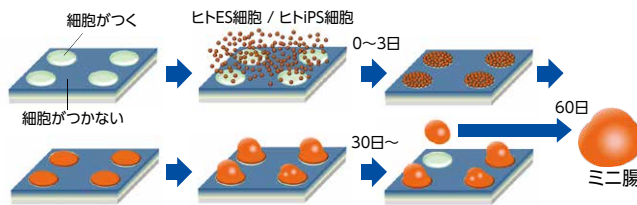
DNPの「薄膜多層化技術」を応用した細胞培養器材

Topics

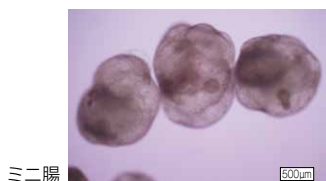
2021年12月20日発表

再生医療や創薬への応用が期待できる「ミニ腸」の試験販売を実施

ミニ腸は、ヒトiPS細胞より誘導された長径1.5mm以上の球状の構造をした細胞です。DNPは2017年に、国立研究開発法人国立成育医療研究センターと共同で、試験管内でのミニ腸の創生に世界で初めて成功し、今回はミニ腸を研究用途で提供します。ミニ腸は、けがや病気で失った体の臓器や組織機能を修復する再生医療での利用のほか、動物実験に代わる新薬開発の被験体として、有効性や安全性を確認する創薬分野での応用が見込まれています。



パターン培養器材(CytoGraph®)上でヒトES細胞/iPS細胞を培養し、ヒトの小腸に近い特性を示すミニ腸を作製

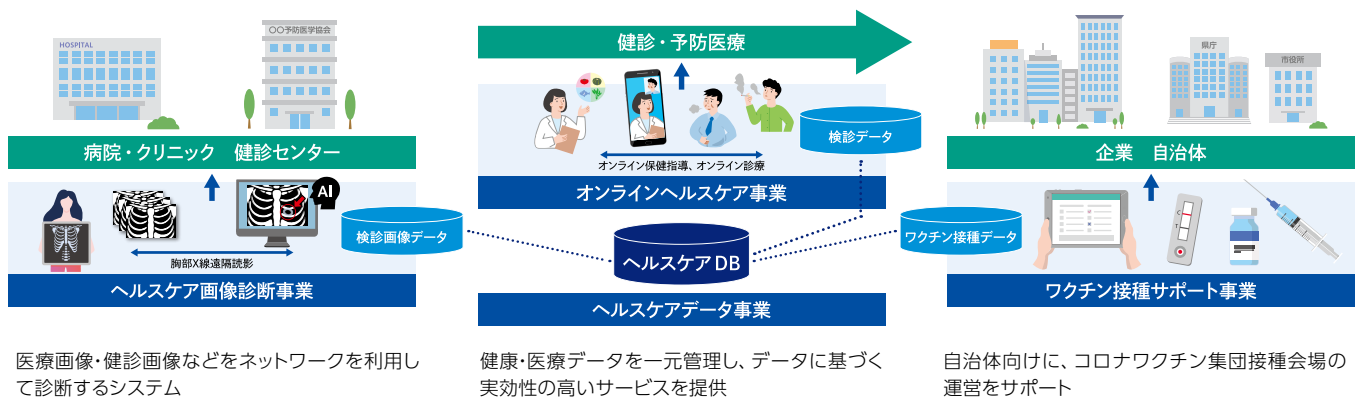


ミニ腸の提供時の状態 (細胞培養用フラスコに入ったミニ腸)

オンラインヘルスケア支援

DNPは2020年4月に、オンラインヘルスケアサービスの専用拠点として「ICTヘルスケアサポートセンター」を開設しました。長年にわたり金融機関等の個人情報を扱うことで培ってきた情報セキュリティ関連の技術・ノウハウを活かしています。

また、企業や健康保険組合向けに、健康維持や疾病・重症化の予防をサポートする専用アプリ「ホスピタルリンク」を開発。予約・チャット・決済などオンラインツールならではの機能も有し、特定保健指導から診療支援まで円滑につなぎ、生活者をトータルに支援します。



遠隔読影を健診分野へ展開

遠隔読影は、医療機関で撮影したCTやMRIなどの医療・健診画像に対して、画像診断医がネットワーク経由で診断を行うシステムです。放射線科の常勤医がいない施設でも、医療画像の効率的な活用が可能になります。

DNPの強みである画像処理や画像解析の技術を健康診断に展開し、AI診断技術を活用したX線画像の遠隔読影などに取り組んでいます。放射線診断医師の不足や医療サービス水準の不均衡などの社会課題の解決につなげていきます。



遠隔読影のイメージ

Topics

2021年12月21日発表

DNPとイリモトメディカル 遠隔画像診断のDXをめざして資本業務提携

DNPと、専門医による放射線科の画像診断支援を行う株式会社イリモトメディカル*は、画像診断事業の拡大をめざして資本業務提携を行いました。

近年、放射線診断専門医がいる施設へ、各医療機関が撮影した胸部X線画像等をネットワークで送信し、その画像から病気の有無や程度を診断する遠隔読影のニーズが拡大しています。受診率が増えている健康診断には胸部X線画像等の診断があり、読影需要の増加、読影品質の向上への迅

速な対応が求められています。こうしたニーズに対して両社は、人工知能(AI)を活用した画像診断のプロセスの最適化と精度の向上、迅速化をめざし、ヘルスケア画像診断のデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進します。



*イリモトメディカルは、健康診断の画像診断で、全国139の医療機関(2021年12月現在)から、年間約77万件の読影依頼を受ける遠隔読影の大手事業者です。

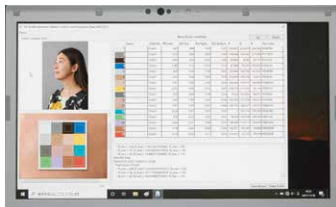
Pickup News

2021年12月3日発表

デジタル画像を製品本来の色に補正するソフトウェアを開発 スマートフォンで撮影した画像の色補正もソフト搭載パソコンで可能に！

DNPは、製品等のデジタル画像をパソコン上で本来の色調に補正するソフトウェアを開発し、提供を開始しました。

コロナ禍をきっかけのひとつとして、オンラインのショッピングや医療、教育など、非対面のコミュニケーションが広がっています。その際に使用するデジタル画像は、カメラの性能や光の影響などによって、製品等の本来の色調通りに撮影することが難しく、個々の条件に合わせて補正する必要がありました。この課題に対してDNPは、基準となるカラーチャートと撮影画像のデータを照合して解析し、補正用のプロフィール(解析結果)を自動生成して、補正後の画像を画面に表示するソフトウェアを開発しました。化粧品や食品・日用品等のECサイトのほか、医療機関や教育機関での利用に向けて販売していきます。



DNPは印刷で培った「正しい色を再現」する技術・ノウハウを活かし、テレビやカメラ等の色の基準となるテストチャートをはじめ、画像補正用モジュールなどを開発・提供してきました。こうした色補正に関する強みを活かして、今回本ソフトウェアを開発しました。



1cm 角程度の小さい
スキンチャートを撮影対象に貼付



補正前

同じ人物を上下で照明を変えて撮影



補正後

被写体の顔色などを本来の色調に補正

スキンチャートと被写体を同時に(または同じ条件で)撮影。この画像データに写ったスキンチャートの色を基準に、本ソフトウェア搭載パソコンで自動計算して色補正用プロフィールを生成します。撮影画像をディスプレイに表示する際にこのプロフィールを適用することで、より正確な色を再現できます。

2022年1月27日発表

「Webユーザビリティランキング2022」で第1位を獲得

DNPのコーポレートWebサイトが今回、トライベック株式会社による「Webユーザビリティランキング2022〈企業サイト編〉」で第1位を獲得しました。このランキングは、同社が国内15業界の売上上位10社、計150社のWebサイトを対象とし、独自のユーザビリティ評価プログラムに基づいて評価するものです。DNPはユニバーサルデザインの視点に立って、より多くの人々がDNP関連の情報を容易に活用できるように、利用者の属性等にかかわらず、また特定の閲覧環境に依存しないよう、ユーザビリティの向上に取り組んでいます。今回の調査では、「アクセシビリティ」「サイト全体の明快性」「ナビゲーションの使いやすさ」「コンテンツの適切性」「ヘルプ・安全性」の5つの評価軸の全てで高い評価を受けました。特に、利用者の疑問や課題を適切に解決し、安心して利用できることを示す「ヘルプ・安全性」の評価が高く、総合スコアでトップを獲得しました。



© DNPのコーポレートWebサイト
<https://www.dnp.co.jp/>

©トライベックのランキングページ
<https://brand.tribeck.jp/usability/>

2021年12月23日発表

「D&I Award 2021」で最高評価を獲得

DNPは、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I:多様性と包摂)を推進する企業を認定する「D&I Award 2021」で、最高評価の認定「BEST WORKPLACE for Diversity & Inclusion」を獲得しました。株式会社JobRainbowが2021年に新設したこの賞は、「LGBT」「ジェンダーギャップ」「障がい」「多文化共生」「育児/介護」の5項目、全100の尺度で、企業のD&I関連の取り組みを幅広く評価するものです。DNPは今後も、一人ひとりのあらゆる違いを尊重し、それらを強みとして掛け合わせることで新しい価値の創出につなげていきます。

©DNPのダイバーシティ&インクルージョンについて

<https://www.dnp.co.jp/sustainability/management/human-rights/diversity-inclusion/>



2022年3月期第3四半期決算のご報告 (2021年4月1日～2021年12月31日)

連結業績の概況 (単位:億円)

科目	当第3四半期	前第3四半期
売上高	10,016	9,876
営業利益	492	319
経常利益	589	395
親会社株主に帰属する 四半期純利益	695	241

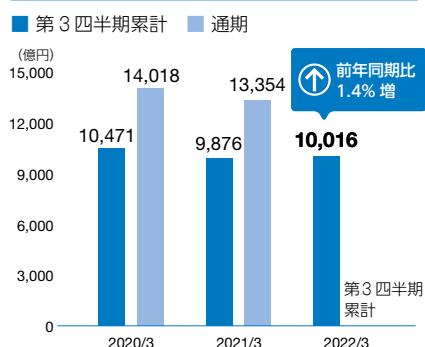
連結業績の予想(修正後^{*}) (単位:億円)

科目	2022年3月期通期(増減率)
売上高	13,500(+1.1%)
営業利益	630(+27.2%)
経常利益	730(+21.9%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	700(+179.0%)

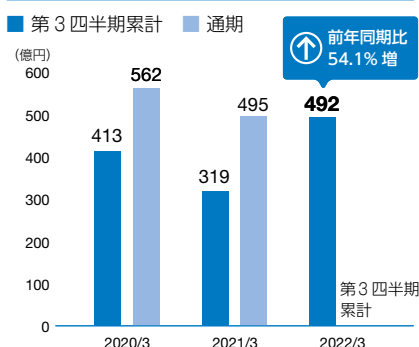
1株当たり当期純利益256円31銭

※2021年5月13日に公表しました2022年3月期通期の連結業績予想を、2022年2月10日に修正しました。

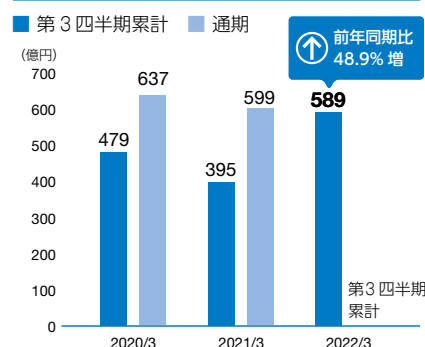
連結売上高



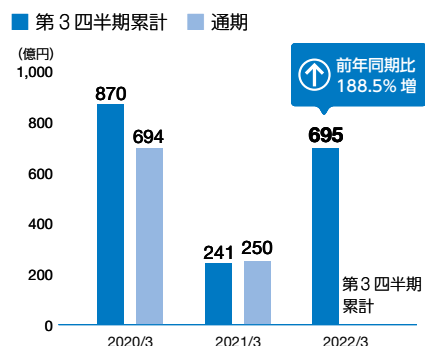
連結営業利益



連結経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



連結貸借対照表(要約) (単位:億円)

科目	当第3四半期 連結会計期間末	前連結会計年度末
資産の部	19,060	18,250
流動資産	7,818	8,058
固定資産	11,241	10,192
負債の部	7,509	7,264
流動負債	3,937	4,081
固定負債	3,571	3,182
純資産の部	11,551	10,986

印刷事業



BPO事業(イメージ)



リチウムイオン電池用バッテリーパック



光学フィルム

飲料事業



飲料

情報コミュニケーション部門

売上高	5,186億円
前年同期比	2.0%減
営業利益	178億円
前年同期比	67.7%増

大型BPOなどが減少したものの、コスト構造改革の効果もあり、減収・増益となりました。

生活・産業部門

売上高	2,905億円
前年同期比	5.4%増
営業利益	116億円
前年同期比	31.3%増

住宅用の内外装材や自動車内装材、リチウムイオン電池用バッテリーパックなどが増加し、増収・増益となりました。

エレクトロニクス部門

売上高	1,569億円
前年同期比	7.6%増
営業利益	354億円
前年同期比	29.3%増

光学フィルム、有機ELディスプレイ関連製品、半導体用フォトマスクなどが増加し、増収・増益となりました。

飲料部門

売上高	374億円
前年同期比	3.5%減
営業利益	8億円
前年同期比	6.2%増

外出自粛や行動制限の影響を受け、飲食店等での販売数量が減少し、減収・増益となりました。

DNPのウェブサイトのご案内

当社ウェブサイトでは、最新ニュースやIR情報など当社をご理解いただくためのさまざまな情報を提供しています。



〈トップページ〉



〈IR情報トップページ〉

●DNPのウェブサイトURL

トップページ→ <https://www.dnp.co.jp/>

株主通信「DNP Report」はこちら→ <https://www.dnp.co.jp/ir/library/dnp-report/>

会社情報

商号	大日本印刷株式会社 (Dai Nippon Printing Co., Ltd.)
本社所在地	東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
ウェブサイト	https://www.dnp.co.jp/
創業	1876年(明治9年) 10月9日
設立年月日	1894年(明治27年) 1月19日
資本金	1,144億6,476万円
発行済株式総数	317,240,346株(自己株式 46,755,254株を含む) (2021年9月30日現在)
株主数	30,429名(2021年9月30日現在)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催時期	6月
上記総会における議決権の基準日	3月31日 その他必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
剰余金の配当基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	電子公告により行います。 (当社のウェブサイト https://www.dnp.co.jp/ir/) ただし、事故その他やむを得ない理由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式事務に関するご案内

1. 住所変更、配当金受取方法の変更等のお問い合わせ先、お手続き窓口

- 証券会社等に口座をお持ちの株主様
株主様が口座を開設されている証券会社の本支店
- 証券会社等に口座を開設されていない株主様(特別口座)
(お問い合わせ先) みずほ信託銀行 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
フリーダイヤル 0120-288-324(土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
(お手続き窓口) みずほ信託銀行 本店および全国各支店(トラストラウンジを除く)
※ご転居の際には、住所変更のお手続きを、必ずお願い申し上げます。

2. 未払配当金のお支払窓口(払渡し期間経過後の配当金領収証によるお受け取り)

- (お支払窓口) みずほ信託銀行 本店および全国各支店(トラストラウンジを除く)
- みずほ銀行 本店および全国各支店

※単元未満株式に関するお知らせ

100株に満たない株式(単元未満株式)を所有されている株主様が、当社に対しその単元未満株式と合わせて1単元(100株)になる数の株式を買増請求できる「単元未満株式の買増制度」を導入しております。また、単元未満株式の買増請求につきましても、お取り扱いしております。

●表紙のデザインについて

『未来へのつながり』をコンセプトに、多様な事業領域へのつながりと、企業理念「人と社会をつなぎ、新しい価値を提供する。」を象徴化した、DNPならではの「つながり」を表現しています。また、ESGの観点に立って「4つの成長領域」における注力事業や経営基盤強化の取り組み、「自然共生社会」の実現に向けた生物多様性保全活動などの写真を掲載しています。

●株主通信「DNP Report」に関するお問い合わせ先

大日本印刷株式会社 IR・広報本部 IR室

〒162-8001 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号 TEL : 03-3266-2111(大代表)

※当株主通信は、DNPの事業ビジョンや業績に関する情報の提供を目的としています。
記載された意見および予測は、作成時点でのDNPの判断に基づいたもので、これらの情報の完全性を保証するものではありません。
※記載されている会社名、製品・サービス名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。